

奥野和代様の俳句

奥野様は当院に治療にいらして
いる患者様です。治療中などに感じた
事を俳句に詠んであります
先日地元新聞に掲載された俳句
がとてむすばうしかたので、にこに
新聞にも掲載させて頂いたのは、
お願いした所、心よくお返に作っ
て頂いたのを御紹介させて頂いて

しぐらるるや 歯科医の扉
重かりし
麻酔医の器具を目で追ふ
冬かゆめ 群れし筏の
梅雨しぐら
街路樹の一葉二葉に
冬雨の
麻酔医の声沈みゆく

おすめの本 (白田昌史)

今回は最近読んで感動した本をご紹介します。テレビでおなじみの才女歌手
中島啓江さんのお書の本「ありがとうは魔法の言葉」という絵本です。
彼女は鹿児島で生まれましたが、父親の仕事で転々と住居を変えています。
4歳前にもと関東の建設会社に就職が決まり、その会社の社宅に落ち着きます。
四畳半生活の始まりです。ところが小学校に上かて「社宅の子、社宅の子」と
いじめられます。机の中のお道具箱に毛虫を入られ「ワジ」です。学年が進んでも
いじめは続きます。ある日クラスの人気の子の誕生日会に呼ばれて喜んで、
そこで事件は起こります。その家につくと別の女の子二人が家の中から出てきて
「ここで待って」と言われます。待つこと数十分。いっくに呼びにくる気配は
ありません。我慢です。みんなを探してみると奥部屋から、にきやかな声。
用意していたプレゼントをその場に置いて立ち上がり帰宅しました。
母親は愛情いっぱい育ててくれます。そんな親に学校でいじめを受けて、一人
ぼろぼろ泣くことを絶対言えません。やがて6年生になり父親の転勤で引越し
することになります。引越しで転校当日まで内緒におこしを思っています。
しかし母親は、鉛筆、ノート、消しゴムの三点セットをクラスみんなに用意し
「ありがとう」と目を見ながら渡しなさい」と言われます。すばらしい三点セットを彼女は
渡したくありません。でも当日、かんはって皆に「ありがとう」と一人ひとりに三点
セットを渡しました。やがて一着いじめた男の子がお泣きして何度も謝りました。
戻がつくとクラス全員が「めんむ」と立ち上がり謝っていました。教室の外では
母親が涙ぐんで待っていました。絶えて絶えて我慢し、しかも感謝の心を
もつことが奇跡を起こすというお話です。

この絵本の元になっている中野さんの迎著「ありがとう(岩瀬書店)があります

